

カリフォルニアの風

「それぞれの歩み、それぞれの卒業」

今回、校長として初めて補習校（幼小部・中高部サンフランシスコ校）の卒業式に参列いたしました。本校の卒業式は、午前中高部と小学部、そして午後幼稚園と、一日のうちに三つの式が行われます。それぞれに年齢も節目の意味も異なりますが、どの会場にも共通していたのは子どもたちの確かな成長と、それを見守る保護者の皆様の温かいまなざしでした。



【幼稚園卒業式の様子：幼小 SF 校】

補習校の卒業式を通してあらためて感じたのは、本校に集う子どもたちの歩みが実にさまざまであるということです。幼稚園から十二年間通い続けた生徒もいれば、保護者の皆様のお仕事のご都合等により、節目を待たず帰国となったお子さんも少なくありません。在籍期間はそれぞれ異なりますが、本校で過ごした時間の長さは違っていても、ここでの学びや出会いは子どもたち一人ひとりの中に、大切な種として蒔かれているのだと思います。

6月の集中学習の特別プログラムで、サンノゼ校の中高生に向けて卒業生が語ってくれた言葉を思い出します。補習校に通っていた当時のこと、そして大学生や社会人になってから感じたことなど、実感を込めて話してくれました。

「大変だったけれど、通い続けてよかった」「日本語力を保つことができた」「一生付き合える仲間ができた」

その言葉には、日々の努力の積み重ねと、時間を経て初めて気づく補習校の価値がにじんでいました。

このたび高等部を卒業した皆さんも、今はまだ実感が薄いかもしれませんが、やがて同じような思いを抱く日が来るのではないのでしょうか。仲間と励まし合いながら通った土曜日の積み重ねは、これからの人生を静かに支える力になるはずで。

そして、引き続き本校に進学・進級する子どもたちには、ぜひ最後まで歩み続けてほしいと願っています。同時に、やむを得ず途中で帰国することになったとしても、補習校での学びが確かな力となり、将来どこかで「通っていてよかった」と思える日が訪れることを心から信じています。

そのためにも、私たち教職員は、すべての子どもたちにとって実りある学びの場であり続けられるよう、教育内容と学校運営のさらなる充実に努めてまいります。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。補習校での時間が、お子様にとって人生の大切な財産となりますよう、これからもともに歩んでまいりたいと存じます。

卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを祈るとともに、在校生の皆さんのさらなる成長を、心より願っております。



【中学部卒業生答辞の様子：中高 SJ 校】



【高等部証書授与の様子：中高 SF 校】



【小学部卒業生答辞の様子：幼小 SJ 校】

令和7（2026）年度を振り返って 各校の主幹より

幼小部サンフランシスコ校 主幹 岩崎 久美

初めて主幹という立場で、行事や日々の教育活動に携わり、本校が多くの方々に支えられて成り立っていることを改めて実感する一年となりました。教職員がそれぞれの持ち場で力を尽くし、保護者の皆様やボランティアの方々が温かく力を貸してくださったおかげで、今年度の学校生活を無事に終えることができました。子どもたちと担任や主任としてかかわる立場ではなくなりましたが、校内で声をかけられることもあり、その一つひとつが嬉しく、励みとなりました。今年度の卒業式は56回目となりました。長く受け継がれてきた本校の歩みを思いながら子どもたちの節目の姿を皆様とともに見守ることができたことを大変うれしく思いました。新年度も子どもたちの笑顔あふれる学校であり続けられるよう、教職員一同、心を込めて努めてまいります。また、学校を支えてくださる皆様の温かいご理解とご協力に、改めて心より感謝申し上げます。

【小学部卒業生答辞の様子→】



中高部サンフランシスコ校 主幹 牛島 宣仁

令和7年度も無事終了しました。今年度はいろいろな意味で大変なこともありました。生徒達と協力して楽しい学校生活の1年を終えることができました。生徒たちは自主的に学校を盛り上げようと、生徒会主催行事や昼休みのカラオケ大会など様々なことを提案し、自ら実行してきました。勿論、保護者会の方々のご尽力により、生徒たちが一番楽しみにしているフードセールや古本市などの行事も大成功で、学校全体が楽しませていただきました。また今年の文化祭はここ数年と趣向が変わり、在校生たちは、こういう文化祭は初めてですが、それぞれに工夫を凝らした出し物を作り上げました。何かを成し遂げる生徒たちのパワーは、中高部SF校の土台となっています。保護者の方々にも様々なところでご協力いただきました。改めてお礼を申し上げます。

【文化祭：中学部発表の様子→】



幼小部サンノゼ校 主幹 小島 浩美

主幹一年目の今年、三月の修了式と卒業式を無事に終えることができました。派遣教員の先生方、事務局の皆様、そして毎週元気に通う子どもたちと、その通学や学習を支えてくださるご家庭の皆様、心より感謝申し上げます。補習校は週に一度の学びの場です。その分、一瞬一瞬の時間を大切に過ごすことの意味を改めて実感しています。ご家庭の支えがあってこそ、限られた時間でも子どもたちは多くの学びや達成感を得られます。また、練習を重ねて臨んだ発表会は、子どもたちにとっても、見守る私たちにとっても、共に感動を分かち合う大切な時間となりました。この学びの場が続くよう努力してまいります。新年度もよろしく願いいたします。

【幼稚部「卒業の言葉」発表の様子→】



中高部サンノゼ校 主幹 渡邊 八衛

今年の補習校も、生徒たちの元気な声があふれる一年となりました。土曜日だけの限られた時間の中でも、学習に励み、仲間と協力しながら多くの行事を通して成長を重ねてきました。

スポーツ大会では、クラスの枠を越えて声援を送り合い、全力で競技に取り組む姿が印象的でした。古本市では、昼休みに本を探す姿が頼もしく、駄菓子フェスでは袋いっぱいにお菓子を詰め込んだ笑顔が広がりました。新年行事では獅子舞や羽子板、書初めなど、日本の伝統文化に触れながら楽しい時間を過ごしました。

学芸祭では全クラスが力を合わせ、「互いの違いが繋ぐ、祝福の舞台」をテーマに劇をつくり上げ、今年度の集大成にふさわしい舞台となりました。

数々の行事が円滑に実施できたのは、保護者会の皆様の温かなご支援のおかげです。一年間、生徒たちが安心して学び、充実した学校生活を送ることができたことに心より感謝いたします。

【学芸会：高等部発表の様子→】

